

(様式2)

令和5年度〔宮前小自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
18	川崎市立宮前小学校	丸山 衛

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
かかわる力と豊かな心をもつ、たくましい子の育成をめざして 「正しく、楽しく、たくましく」  ○児童が学んでよかったと思える学校 ○保護者が通わせてよかったと思える学校 ○教職員が働けてよかったと思える学校	①人権尊重教育を基盤とした教育の実践 ②児童が安心して生き生きと自主的な活動ができる環境づくり ③一人ひとりの教育的ニーズに合った学習指導 ④保護者や地域との協力体制の更なる推進	・学校生活のすべての機会を通して、児童が「わかる」「できる」を実感できる教育の推進 ・意欲と学び合いを大事にする授業の実践 ・認め合い、高め合う学校生活の創造

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 人権尊重教育の推進 安心できる学校	○いじめを許さない学校風土の醸成 ・教師と児童のあたたかな信頼関係の構築 ・互いのよさを認め合う学級経営、授業展開 ・あいさつをはじめ、言葉を大切にしている指導の推進 ・日常の観察や学校生活アンケート、個別面談による児童のみとり ・学年や支援教育コーディネーター(Co.)を中心としたチーム支援の充実 ・共生*共育プログラムと効果測定の実施	・職員研修、アンケートの実施、学年協働体制づくり、担任とCo.、国際教室担当等の連携などにより、いじめやそこにつながるトラブルの早期発見、早期解決に努めてきた。多くのケースを把握し対応できたが、課題となったケースもあった。 ・効果測定を実施するとともに、その結果を学年で共有し、学級集団づくりや友達関係づくりについて研修した。 ・家庭とのよりよい連携をめざし、事故、トラブル等の速やかな連絡、家庭からの相談への誠実な対応を行ってきた。 ・児童同士のトラブル等の事例、対応について職員会議等で共有するとともに、職員研修等で具体的な指導・対応について学び合った。	・学年協働体制の一層の充実と学級担任とCo.、国際教室担当、特別支援級担任等との連携のさらなる緊密化を進めていく。 ・職員研修や事例から学ぶ機会の設定などにより、職員の人権感覚や児童理解のアンテナ、児童対応、保護者対応のスキルなどをさらに磨き、いじめ等の未然防止、早期発見に努めていく。 ・あいさつはコミュニケーションの第一歩と考え、大事な力を育むためのものとの職員の共通理解をさらに進め、気持ちのよいあいさつのできる児童を育てていく。そのために、まず職員がお手本となるあいさつをしていく。 ・国際教室と各学年・学級との連携、言葉の壁に対応した学級での指導について、研修会等を通して、学びを深め、実践していく。
2 児童の主体的な活動 交流活動		・全校朝会、音楽朝会を4年ぶりに体育館で行い、表彰児童を全校でお祝いしたり、全校的なトピックを一緒に聞いたりすることができた。また、音楽朝会では、「今月の歌」などを全校で合唱することができた。 ・全校集会とたてわり活動、MPP(宮前パワーアッププロジェクト)等を、大事な異学年交流の場として位置づけ、児童の計画委員会、集会委員会を中心として、内容を工夫し、実践した。 ・3年生以上の学年で、学年行事や学校行事について実行委員制を実施し、行事の実施について、児童自身の手で進めていけるよう取り組んだ。また、低学年においても、中学年以上の実行委員制を想定しながら、各学級の状況に応じた実行委員制を実践した。	・全校朝会、音楽朝会、全校集会活動を継続し、児童が宮前っ子として一体感がもてる取組を進める。 ・計画委員会、子ども会議などの児童会活動やたてわり活動を充実し、異学年交流を推進して、高学年児童が下学年児童に優しく接する態度・気持ち、低学年児童が高学年児童に憧れる気持ちを育てていく。 ・運動会については、低・中・高学年ごとの演技・競技実施と観覧の入れ替え制を継続しつつ、全校児童の一体感や参加意欲が一層高まるように工夫をしていく。

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
3 教育課程・学習指導研究・研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりの教育的ニーズに合った学習指導</li> <li>・「わかる」「できる」授業の実践</li> <li>・基礎基本の学習内容の定着</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり</li> <li>・国語科の校内研究への取組</li> <li>・GIGAスクール構想に基づいた授業実践</li> <li>・キャリア在り方生き方教育の年間指導計画に基づく授業実践</li> <li>・学校司書の活用による読書活動の活性化</li> <li>・音楽、外国語活動への外部講師の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる」「できる」授業を目指して、学年での教材研究、協力指導を行った。</li> <li>・国語、算数をはじめ、学習における個人の学力差が大きく、各学年それに対応した指導が難しかった。</li> <li>・校内研究で国語科の研究を行い、授業研究会を通して、学び合うことができた。国際教室に通う子どもたちへの指導についても研究の柱として取り組んだ。</li> <li>・GIGA端末を活用した思考力、表現力の育成について、実践を重ねることができた。</li> <li>・学校司書と学級担任との連携が進み、「学習に資する図書館」が推進できた。図書館の環境整備、朝読書の実施などにより、読書が好きな児童が増えた。</li> <li>・音楽指導、低学年の外国語活動などに、外部講師を導入し、学習の活性化を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着をめざし、「わかる・できる授業」の実践を進めるとともに、個人差への対応について効果的な指導方法を探っていく。</li> <li>・Co、国際教室担当、教務主任、非常勤職員等の連携により、学習に課題のある児童への支援を推進する。</li> <li>・国語科の校内研究を継続し、児童の言葉の力を高めるとともに、今年度取り組んだ「言葉の壁のある子」への指導について、さらに研究を深めていく。</li> <li>・学校司書と学級担任との連携をさらに深め、図書資料の活用を一層推進して、学習活動の充実と読書活動の活性化を図る。</li> <li>・学習場面でのGIGA端末の効果的な活用について、一層の推進を図る。</li> </ul>
4 児童支援・支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全校体制での個のニーズに合った支援の充実</li> <li>・職員会議、打合せ等での支援が必要な児童等についての共有</li> <li>・日本語指導の必要な児童への支援</li> <li>・支援教育Co.を中心とした教育相談、学習支援の充実</li> <li>・配慮の必要な児童への個別指導計画の立案実践</li> <li>・教育サポーター等の活用による学習支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等において、各学年で起こった事案や支援の必要な児童について共有し、全職員で支援にあたるようになってきた。</li> <li>・通常級で支援が必要な児童について個別指導計画を作成し、個に応じた指導に努めた。一方、外国籍児童で特別な支援が必要なケースも増えてきており、その支援・対応が厳しい状況がある。</li> <li>・講師を招いて、通常級の支援の必要な子どもたちへの対応や接し方等について研修を行うとともに、非常勤職員、教育サポーター等の活用により、学習支援を行った。</li> <li>・国際教室において、1年生と転入児童を対象に学校生活についての「スタートカリキュラム」を実施した。</li> <li>・不登校の児童について、担任とCo. が連携し、ケースに応じた連絡、学習フォロー等をしてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の必要な児童の情報共有を継続し、全職員による見守りができるようにする。</li> <li>・Co. を中心とした支援体制を充実し、全教職員が情報共有して支援に当たれるようにする。また、国際教室、特別支援級と学年の連携をさらに緊密にしていくとともに、学習サポーターの確保を充実する。</li> <li>・国際教室での「スタートカリキュラム」を実施する。</li> <li>・通常級で支援が必要な児童への対応や指導についての研修を行う。</li> <li>・総合教育センター等、他機関との連絡を密にして、必要な児童について、連携して支援ができるようにしていく。</li> <li>・不登校児童について、保護者との連携はもとより、必要に応じて、外部相談機関等を活用し、状況に応じた支援等ができるようにする。</li> </ul>
5 心身の健康 安全な学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全安心な学校環境づくりと心の健康づくりの推進</li> <li>・迅速な修理・修繕の実施</li> <li>・巡回スクールカウンセラーの配置の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校用務員による迅速な修理・補修・環境整備等を行うことができた。</li> <li>・チャレンジワークス職員による校内共有個所や職員室内の消毒を継続して行った。</li> <li>・スクールカウンセラーの配置を保護者・児童に周知し、活用を進めた。児童の利用が多く、児童支援に活かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校用務員との連携を一層密にして、安全で学習しやすい環境づくりを推進する。</li> <li>・防災訓練、交通安全訓練など、有効な訓練実施について、検討・研究を進める。</li> <li>・スクールカウンセラーとの一層の連携を図り、児童の悩みに寄り添った指導・支援につなげていく。</li> </ul>
6 家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭への的確な情報発信による児童・保護者の安心と信頼の確保</li> <li>・学校だよりとメール配信による的確な情報発信</li> <li>・HPの活用による地域を含めた情報発信</li> <li>・外国につながる児童や保護者対応の充実</li> <li>・学校評価アンケート(児童・保護者・職員)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時期を外さずにおたよりやメール配信で家庭に情報を提供し、児童・保護者の安全安心の確保を図った。</li> <li>・個人面談2回、学年懇談会3回、授業参観4回(うち土曜参観2回)、学校公開を2日間行った。</li> <li>・12月に全保護者を対象に学校生活アンケートを行った。</li> <li>・学校教育推進会議、学校説明会、学校報告会で情報提供と意見収集を行った。</li> <li>・定期的な放課後公園パトロールの実施。</li> <li>・放課後の校庭遊びの実施。</li> <li>・PTA主催による「宮前フェスティバル」の開催。</li> <li>・銀柳街での阿波おどり参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童個人票等、個人情報のDX化等を推進する。</li> <li>・紙媒体、メール配信、HP等を活用し、保護者への周知を的確に行う。</li> <li>・個人面談、授業参観等のもち方を工夫し、保護者との連携を図っていく。</li> <li>・学校評価アンケートを継続し、保護者からの意見を学校運営に生かしていく。</li> <li>・公園パトロールを継続し、放課後の児童の遊びの安全を図る。</li> <li>・「みんなの校庭プロジェクト」に対応する。</li> <li>・「宮前フェスティバル」の円滑実施に協力する。</li> <li>・銀柳街での阿波おどりに引き続き参加する。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
7 職員の健康 人材育成 不祥事防止	○職員の心身の健康を支える職場づくりと人材育成 ・職員との緊密なコミュニケーション ・学年で支え合うチーム意識の醸成 ・管理職、教務主任、Co. による声かけ、目配り ・若手教員育成のための研修実施 ・的確な情報提供、注意喚起による不祥事防止	・学年主任を中心としたチーム意識を定着できるよう、学年内での情報共有と協力を推進した。 ・管理職、教務主任、Co. が職員の心身の状況について、常に情報共有するとともに、連携して声かけ、目配りをしてきた。 ・定期的に学級担任からの学級の様子、実践報告や困り感等の相談を受け、校長からの助言や励まし、求める働き等を伝えることができた。 ・4年目までの教員を対象に、7・8年目の教員がアドバイザーとなって、「若手研修会」を実施した。リラックスした雰囲気の中で、明日に役立つ学び合いができた。 ・市教委による特別研修などの機会を活用しながら、教育公務員としての意識を高めるとともに、不祥事等の情報提供を随時行い注意喚起した。	・「安心な環境づくりこそ、人の力を伸ばす」という考えのもと、学年をベースにして、全校的に協力できる雰囲気をつくり、互いに力を合わせられる職場づくりを進める。 ・管理職、教務主任、Co. の緊密な連携により、職員が働き甲斐をもって、仕事ができるよう、悩みの受け止め、アドバイス、励まし等を的確に行っていく。 ・「若手研修会」を継続し、若手教員の力量アップと人間関係の構築を図るとともに、7・8年目教員の先輩教員としての意識と力量の向上をめざす。 ・不祥事防止のための情報提供等を時期を逃さず行くと共に、悩みを抱え込まない風通しのよい職場づくりをめざす。
8 働き方改革の推進	○教職員の働き方改革の推進 ・休憩時間の確保によるゆとりある職場づくりの推進 ・GIGA端末の活用等による会議・打合せの効率化 ・学校司書配置を生かした学級担任の授業準備の負担軽減と学習の充実 ・「チャレンジドワークス」導入による職員の業務負担軽減 ・ノー会議デーの設定、成績作業日の設定など、業務軽減のための取組推進	・休憩時間を児童の下校時刻後に設定することで下校を急がせたり、慌てて会議に向かったりすることがなくなり、一息ついてから会議・打合せができた。また、会議等の進行も効率的になってきた。 ・学校司書に学習資料の準備等に協力をいただき、授業準備の負担軽減と学習活動の充実を図れた。 ・「チャレンジドワークス」との連携が進み、印刷等はもとより、消毒作業、電話受付、来客対応と門の開錠等、事務職員とも連携して幅広く活躍いただいた。 ・補教等のバックアップ体制を整え、職員自身や家族の病気等に際して不安なく休めるようにすることができた。 ・ノー会議デー、学期末の成績作業日を行事予定に位置付け、職員の負担軽減を図った。	・児童の下校時刻に合わせた休憩時間の設定は、職員のゆとりをもった働き方に資するものであったので継続していく。 ・コロナ対応としてスタートした、運動会の観覧入れ替え制による半日開催、個別対応による入学説明会等は、保護者、職員の負担軽減になっているので継続していく。 ・学校司書と学級担任との連携をさらに進め、授業準備の負担軽減と学習活動の充実を両立できるようにしていく。 ・「チャレンジドワークス」配置4年目を迎えるので、連携をさらに円滑にして、教職員の負担軽減とワークス職員の就業支援を推進する。 ・GIGA端末の活用も図りながらの会議・打合せの効率化、ノー会議デー、成績作業日の設定等の取組を継続して行う。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<p>【学校教育推進会議委員より】(第1回 6月23日 第2回 2月14日)</p> <p>・家庭科の授業、児童同士が声を掛け合って落ち着いて取り組んでいた。体育の表現発表会、面白い取組だった。授業が落ち着いて行われているのが何よりよい。がんばってコツコツと続けてきたことの成果が児童の姿の向こうに見えた。</p> <p>・GIGA端末を使用しているグループディスカッションと意見発表の光景には感心した。初任者の先生方も卒なく子どもたちに対応していて頼もしかった。</p> <p>・計画委員会の活動報告がすばらしい。6年生が行動的でよいと思った。</p> <p>・アンケート結果は過去のものも見られると経年変化がわかってよい。</p> <p>・学校の教育活動が多岐にわたるなかで、学習内容を定着させていくのはたいへんだと思うが、引き続きがんばってほしい。</p> <p>【保護者アンケートより】※12月実施 ※「成果がでている」の回答数値</p> <p>①「子どもたちは元気に学校に通っているか」 *94%</p> <p>②「学校は安心できる居場所になっているか」 *95%</p> <p>③「学校はよいところやがんばりを認める指導を行っているか」 *90%</p> <p>④「学校はご家庭からの連絡・相談に迅速に対応しているか」 *93%</p> <p>④「子どもたちはGIGA端末を積極的に活用しているか」 *82%</p> <p>⑤「子どもたちは学習に意欲的に取り組み学習内容が定着しているか」 *81%</p> <p>⑥「お便り、メール配信等によって、学校と家庭は連携できているか」 *92%</p>	<p>【今年度のまとめ】</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、これまでの3年間を検証、見直しをする年となった。4年ぶりの水泳学習を少人数、ゆっくりめの指導によって安全に実施できた。また、公共の交通機関を利用した校外学習を3つの学年で実施でき、ゲストティーチャーによる体験学習、町探検等学区内の校外学習も実施できたのは、児童の学びの広がりにつながった。一方、運動会は、これまでの学年別・観覧入れ替え制を継続した。観覧しやすさ、児童の体力的な負担軽減、種目数の確保等、メリットが大きい。</p> <p>学校生活では、児童アンケートのなかで、「友達と協力して活動できた」に83%の児童が「進んでできた・できた」と回答しており、児童が互いに認め合いながら、力を合わせ学んでいる様子がうかがえる。また、アンケートでは、学校が楽しい理由として、読書を選択している児童が低学年51%、高学年32%となっている。学校司書配置効果とともに、朝読書等の全校的な取組の成果がうかがえる。今年度、校内研究の柱として取り組んだ「言葉の壁」のある児童の学習参加については、様々な手立てが提案され、成果が表れていた。また、国際教室の「スタートカリキュラム」の実践は、スムーズに学校生活を始められる助けとなっていた。国際教室と学年との日常的な連携をさらに充実させていきたい。GIGA端末の活用が進んでいる。今後ますます活用を広げるとともに、ルールの定着、クラス差の解消等も併せて行っていく必要がある。</p> <p>【次年度へ向けての取組】</p> <p>○児童が満足感、達成感を得られる学校生活の実現→「わかる授業」「楽しい授業」の実践、自主的活動の充実</p> <p>○増え続ける外国籍児童の安心な学校生活実現と学習保障→国際教室の充実と学年との一層の連携の推進</p> <p>○読書活動の活性化→「朝読書」の設定と全校的な読書活動の実施</p> <p>○安心と働き甲斐のある職場づくりによる人材育成と働き方改革→学年協働体制の充実、若手研修会の実施</p>